

顯孝禪寺趾に就て

筑紫, 頼定

<https://doi.org/10.15017/2344463>

出版情報 : 史淵. 2, pp.90-92, 1930-12-28. 九州帝国大学法文学部
バージョン :
権利関係 :

顯孝禪寺趾に就て

顯孝禪寺は闍提正具禪師の開創で、神感山と號し、其の趾は福岡縣糟屋郡多々良村大字津屋字寺の内にある。

〔文獻調査〕

本朝高僧傳に

筑前顯孝寺沙門正具傳

釋正具、字闍提、嗣法洛之法觀寺救海和尚、明菴禪師六世之孫也、初住法觀、聞法者多、江州大守藤貞宗、大友氏號直庵、聘請薰豐之萬壽、包笠峰集、極越又筑前州建顯孝寺、請具爲開祖、鎮西道俗傾誠歸禪、臨終偈曰、
離却穀漏 處處相見 馬腹驢胎 日月月面

とあり、顯孝寺舊記、筑前觀風土記、太宰管内志、筑前續風土記拾遺、筑前名所圖繪、福岡縣地理全誌、及び諸文獻を閲すれば、

當寺は、後醍醐天皇御宇左近將監正五位下近江守藤原貞宗大友氏の建立で、闍提正具禪師を聘請して、開山とし、本尊は釋迦佛、脇侍は文殊、普賢の二菩薩を祀り、本堂五間、客殿五間、鐘棟、厨、輪藏、及塔頭十區ありて、塔頭名は筑前續風土記によると、

筑紫頼定

降圓菴、福壽菴、善悅菴、見正菴、壽慶軒、正示院、知正軒、報恩寺、隆興院、寶珠菴、
とし、太宰管内志には

隆圓菴を降圓菴、善悅菴を善說菴、正示院を正木院、知正軒を和正軒、隆興院を隆興院

とあるが、多分字の誤りで前者が正當であらうと思はれる。

末寺は十四箇寺あつたと傳へられて居るが、其の名稱は明かない。

寺領は粕屋郡及び筑後、豊後の内にて百町有つたと記されて居る。

當寺關係の史料として昔を物語るものとしては建仁寺仲岩圓月禪師東海一漚集收。神山移闍記や、僧絶海の著蕉堅稿に詳かに記してある。神山移闍記は太宰管内志粕屋郡下神山の條に出されて居るが長文であるから茲には略して置く。蕉堅稿には

應無方住筑州旌忠顯孝寺、山門疏海上名藍有、如珠宮具闕、關西人物亦猶鱗角鳳手、適得三宗門之勝疏、當後法席之全盛云々とある。

次に此寺で四月八日に佛生會が行はれて居た時に絹笠を聖福

寺からは四本、宮崎からは八本持来つたと云ふ。如斯由緒ある宏大な伽藍も残念ながら、永祿十二年五月の多々良川附近の戦の際焼失したと舊記に見え、太宰管内志には、

此寺今は衰へて僅に小菴のみあり。中略

慶長の比浄土寺を此邊に作りて山號を闡提山と定むされども昔の寺院にあらず今寺ノ東ノ谷を寺ノ内といふ是顯孝寺の趾なり山上にも礎あり是は鐘樓のあとなり寺ノ内ノ前一町ばかりに門の本といふ所あり是昔寺門のありし所なりといふ云々と記してある。

〔實地調査〕

然るに今年十月二十六日大神助作氏の案内で實地調査に行つたのであるが、今は山上の礎があつたといふ鐘樓の趾には現在老松社が鎮座されて、其の礎石らしいものは全く無く、大神氏の談によると、顯孝寺の礎石と傳へられて、山の下の方の民家に運ばれて藁打の臺石に使用されて居るのが多數あるが或はそれではないかとのことである。

又昨四年十月十二日小阿彌道春師、橋詰郷土文化社主幹、等と顯孝寺趾を初めて調査した時、浄土宗顯孝寺靈牌所の棚の隅から塵ばかりの開山、開基、の二つの古い位牌を發見する事が出来た、これは或は一光寺の正聖上人が今の寺を創立の時作製されたものではないかと思はる、點もあるが其銘を調べて見ると開山のは表の銘に、

當寺開山闡提正具大和尚禪師

とし、裏の銘には前記の本朝高僧傳の文があり、開基の分には

顯孝禪寺趾に就て

表の銘に、

當寺開基檀越顯孝寺殿具簡直庵大居士

裏の銘には、

源朝臣賴期卿男字一法師冠者左近將監檢非違使左衛門大尉從五位上豐前豐後守能直六代(口裔カ)大友孫太郎左近將監正五位下近江守貞宗父大友新藏人左近將監出羽守昇殿從四位下貞親(法名玉山正過)號萬壽寺母戸次太郎肥前守時親女とある。

それから其時多々良村字浦山大神助作氏宅地内から二十餘年前と昭和三年に出土した焼物數點を拜見したのであるが、此の焼物に就ては斯道に精通の陶匠道春師の話によれば、

- 一、泥青瓷茶碗 徑五寸 朝鮮形に近し外に十八辨あり明末頃のものと
- 一、白泥高麗皿 徑三寸八分 極樂鳥と天人雲の分と五彩卷雲唐草のもの
- 一、饒州もの皿 徑五寸
- 一、定窯脫華盃 大明年造
- 一、白泥盃

であるとの事で、又昨四年調査後同地から出土した一個の焼物を今年十月二十六日拜見したが、やはり淡青瓷の然鉢で糸底の無いものであつた。

以上の出土品は顯孝禪寺塔頭十區中何れかの遺物として推定する事が出来る。

因に記す。

當寺の二世放牛光林禪師は宮崎勝樂寺の開山で勝樂寺には古い開山の位牌が存して居る。現在多々良村にある、浄土宗顯孝

顯孝禪寺址に就て

九二

寺は顯孝禪寺とは全く關係はないのであるが、關提山と號し、慶長年間黒田長政公の家臣大音彦左衛門重泰の建立で管崎の光寺の正譽上人の開山になつて居る。禪寺の寺名を再興した關係が、大音氏を中興開基、正譽上人を中興開山と、同寺の位牌には記るされてある。此の寺には、外に杉伯耆守同豊後守の位牌もあつて表の銘に、

杉林院殿淨音大居士

洞岳院殿淨久大居士

とある。以上は同寺研究者の參考として記して置く。

終に此調査に當り御配慮下さつた島田寅次郎先生、多々良村々長河邊丈次郎氏大神助作氏、小阿彌道春氏、各位に對し、謝意を表する次第である。

(昭和五、一〇、三〇、管崎五智輪院址草舎にて)